

国際共産主義者同盟（第四インターナショナリスト）

国際執行委員会の声明

帝国主義の攻撃からリビアを防衛せよ！

国際共産主義者同盟（第四インターナショナリスト）（ICL）は、世界中の労働者に、昨日強欲な帝国主義政府連合が始めた攻撃に対し、半植民地リビアの軍事的防衛の立場に立つよう呼びかける。フランス、イギリス、米国の支配者たちは、他の帝国主義諸政府と結託し、またアラブ連盟の首長、国王や軍事ボナパルティストの承認の下で、一瞬のむだもなく、木曜日に国連安全保障理事会が出した承認に基づいて行動した。この承認とは、「市民を守る」とか「民主主義」を保障するとかいう名目で、無数の罪もない人々を殺戮するというものである。フランスによる空からの攻撃が行われた後、即座に米国とイギリスのミサイル攻撃が続いた。その一方でエジプトの軍事政権は、ベンガジの反政府勢力に武器を供給している。インドシナや朝鮮半島から今日の米国主導によるイラクとアフガニスタン占領に至るまで、「民主的」帝国主義支配者たちは介入し、数えきれない犠牲者を虐殺している。フランスとイギリスが、歴史的に、近東、アフリカ、インドで無数の虐殺を実行したことを思い起こさなければならない。それは、彼らがそうした地域の植民地従属を追及するためであった。現在攻撃のため、空軍基地の使用を提供しているイタリアは、第二次大戦前、その植民地支配の間、東部リビアのキレナイカの人々のおよそ半数の死に責任があることを思い起こさなければならない。

現在の攻撃の前、リビアにおける対立は低度の内戦の形を取っていた。この内戦には、トリポリに中心を置く独裁者ムアンマル・アル=カダフィ大佐の政府とリビア東部地域に集中している帝国主義に支持された反政府勢力との間にある、部族と地域の分裂が重くのしかかっている。ICLの米国支部の新聞『Workers Vanguard』（WV）No.976（3月18日）は次のように

記した。「マルクス主義者は現在この対立のどちら側にも立たない。」しかしと記事は続けて言う。「帝国主義が新植民地リビアに対して攻撃を行った場合には、国際プロレタリアートは、リビアの軍事的防衛の立場に立たなければならない。その一方でカダフィの資本主義体制に何らの政治的支持も与えない。」リビアでの内戦は、現在、帝国主義に対する新植民地国の戦いに従属している。帝国主義諸国の支配者による略奪と軍事的冒険をくい止めるために、そうした国々の労働者が取るあらゆる手段は、資本主義の搾取と貧困と抑圧から自身を解放することに向けた手段である。帝国主義の攻撃からリビアを防衛せよ！ 米国の第5艦隊、全ての帝国主義の軍事基地、軍隊は北アフリカと近東から出て行け！

イラクにおける100万人をはるかに超える人々の虐殺が、1990年代の国連の支援による飢餓封鎖と「飛行禁止空域」設定で始まったことを思い起こさなければならない。国連安全保障理事会による最近の行動は、アフリカ民族会議によって指導された新アパルトヘイトの南アフリカ政府を含めて、国連が帝国主義の強盗どもとその従僕や半植民地の犠牲者の巣窟だという性格を持つことを再度強調している。官僚主義的に歪曲された労働者国家である中国の代表による棄権は、帝国主義の略奪に暗黙の承認を与えた。そしてそれは、1949年の中国革命を転覆しようとする正に真の諸勢力を大胆にしている。

帝国主義支配者たちとそのメディアの代弁者は、最近の抗議の波の間、カダフィ政府が殺したリビア人にたいして、そら涙を流している。このことは、彼らがイエメンで連続して虐殺された抗議者たちにたいし無言のままであること、そしてまた彼らがずっとバー

レーン王国を支持していることと、極めて対照的である。イエメンの独裁政権はワシントンによる「テロとの戦い」の重要な構成部分であるし、またこの王国は米国第5艦隊本部に基地を提供している。大規模な抗議を押しつぶすのを促進するために、バーレーンは先週、中世主義で神権政治のサウジ王制から軍隊を招き入れた。サウジはこの地域における米帝国主義の利益の重要な防壁である。帝国主義支配者の目には、バーレーンのシーア派多数者もイエメンの大衆も、この支配者たちが尊重せざるを得ない権利を何ら持たない人間以下の存在なのである。

統一書記局 (USec) とイギリスのクリフ派社会主義労働者党に代表される数多くの社会民主主義左翼は、いわゆる「リビア革命」に声援を送ることによって、リビアでの帝国主義による虐殺に向けた足場を準備する役割を果たしてきた。ベンガジに基盤を置く反政府派を構成する親帝国主義の「民主主義者」、CIA の手先、君主主義者そしてイスラム主義者の陰謀団への支持をしきりに勧めつつ、こうした改良主義者は、現在、反政府派支持のなかで、帝国主義の軍事介入に尻込みするふりをしている。USec のフランス支部が2009年に組織した反資本主義新党 (NPA) は、昨日のデモ呼びかけに署名したが、このデモは、ベンガジの一团が「リビア人民の唯一の合法的代表」として承認されるべきだと要求した。ところでフランスの支配者サルコジはすでにこの一团を承認していたのだ！

同時に、米国の労働者世界党 (WWP) のように、カダフィによる「反帝国主義」の見せかけのなかで幻想を助長してきた左翼グループは、何処でもそして何時でも、労働者階級を存在もしないブルジョアジーの「進歩的」翼に縛り付けようとしているのである。

我々は今日、我々が1986年の米国レーガン政権によるリビア爆撃の時に行ったように、リビアの敵である帝国主義に対して「世界の労働者階級がリビアの側に立つ必要性を宣伝するためのあらゆる努力をする」(WV No.401、1986年4月11日)と誓う。利益と支配を迫及するなかで、「国内」では残忍に労働者階級を搾取し、経済危機の時には労働者をただごみために捨て去るだけの同じ資本家支配階級は、今日、国外で残虐な帝国主義の攻撃を実行しているのだ。帝国主義戦争に反対する闘争は、階級闘争を別個に行うことも階級闘争から離れて行うこともできない。社会主義革命だけが、戦争を引き起す資本主義的帝国主義体制を打倒することができる。我々の道は、レーニンとトロツキーのボルシェビキ党に指導された1917年の十月革命の道である。この革命は、至る所で、プロレタリアートにとって革命的国際主義の指針であった。我々は、近東から帝国主義の中心地に至るまで、労働者大衆を導く手段として、第四インターナショナルを再度鍛え打ち固めるために闘う。それは新たな十月革命と世界社会主義社会に向けて前進するためである。

2011年3月20日

出版物の申し込み

申し込みから2年間、発行された全ての出版物(不定期刊)及びピラを郵送します。

2年間の料金: 300円(郵便振替も利用できます。00110-0-49515 SGJ)

名前

住所

TEL

(“Statement of the International Executive Committee of the International Communist League (Fourth Internationalist): Defend Libya Against Imperialist Attack”; 20 March 2011)

スパルタシスト・日本グループ

〒115-0091 東京都北区赤羽郵便局私書箱49号

TEL 03-3963-8007

2011年4月23日

労働組合員による印刷